

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大里柳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

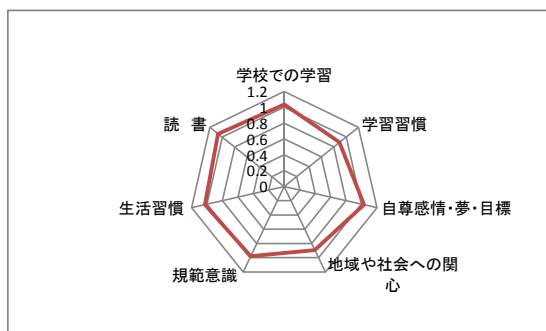
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・「書くこと」の領域は全国平均を少し下回っていた。日頃から手紙を書く活動を意識して取り組む必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・話し合いの内容を説明している文章を選ぶ選択問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	・手紙の内容を要約して、説明している文章を選択する問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・特に「読むこと」の領域の正答率が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・スピーチメモを基に、話し合いにふさわしい言葉遣いと字数で文章を書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・2つの文章の内容を満たすように、字数を合わせて文章を書く問題の正答率は少し低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・「量と測定」の領域は、全国平均を下回っていた。同じ大きさの幾つかを比べる活動に、それぞれの学年で取り組む必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・わり算を分数で表す問題や整数と小数を使ったかけ算の問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・小数と整数が混在した加減法で、位を揃えて計算する問題の正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域で全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・「量と測定」「図形」の領域は、更に向上していくよう取り組んでいく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	・表を基につくられた式を見て、式の数字がどのような数なのか読み取る問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	・割合を表すのに適したグラフを選ぶ問題の正答率が少し低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で振り返りをよく行っていたと思う」と答えた児童が全国平均を大きく上回り、授業後の自分の変容を自覚できた児童が多かった。また、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることも全国平均を上回っていた。</li> <li>・「朝食を毎日食べている」と答えた児童の割合は、全国の割合から見ても高く、基本的な生活習慣は身に付いていたが、「家庭学習の時間」については、全国平均よりも低かった。</li> <li>・「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合は、全国平均を上回り、自尊感情の高い児童が多いことが分かった。</li> <li>・「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合は、全国平均よりも低かった。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動を積極的に位置付けることで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。(全校)</li> <li>・児童の課題意識を高めるようなめあてづくりを行うことで、主体的に学習に取り組めるようにする。(全校)</li> <li>・生活科や総合的な学習の時間等で行っている地域に関わる活動を深化させ、地域への関心を高めるようにする。(2年～5年)</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ハンドブックを月始めの1週間で確実に回収し、賞賛・支援を行い、家庭学習への意欲を高めるようにする。(全校)</li> <li>・自主学习ノートの取組を奨励し、児童の取組を確実に評価することで、学ぶ習慣が身に付くようにする。(2年～6年)</li> </ul>
---